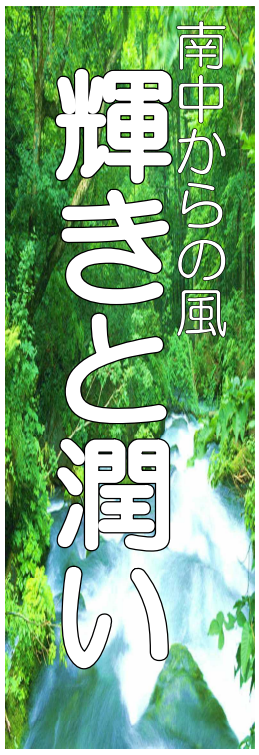


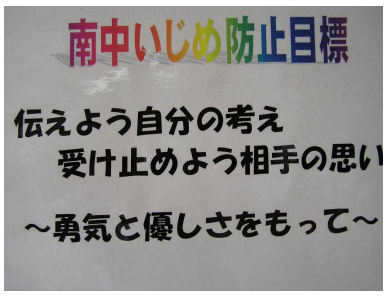
学校通信
平成２７年６月１１日
第４号
発　行
校長　林田靖也

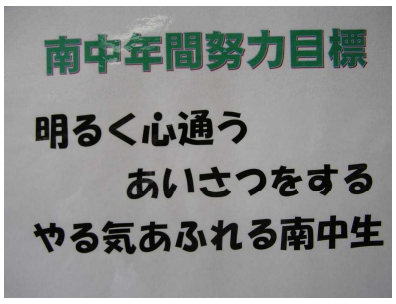
林田靖也校長

先日５月27日に、生徒総会がありました。生徒会執行部及び専門委員長等は、事前に総会の準備や学級生徒会で出された意見についての答弁書を作成し、リハーサルを行い総会に臨みました。総会は、これまでの準備のおかげで、スムーズに且つ堂々とした答弁で、内容等も充実していました。

また、総会の中で、南小国中学校生徒会宣言、南中年間努力目標、南中いじめ防止目標を全校生徒で採択し、みんなで声を上げて読み上げました。これらは、**『生きていく』上で大切にしていかなければならないこと**ばかりです。

今後は、担当する先生と連携し計画に沿って確実に実行し、よりよい南中を築き上げて欲しいと願っています。





生徒総会を終えて

生徒会長
武田桜子さん

先日開催した生徒総会は、生徒会を中心に行われました。よりよい南中づくりのため全校生徒が意見や提案を出し、それについて委員長が答えていきました。

生徒一人一人がそれぞれの活動について考え直し、いろんな視点の意見や提案が出され、とても有意義な総会になりました。

この生徒総会で出された案をよりよい学校づくりのために行かしていきたいと思います。

小国支援学校との交流会

６月２日、５日に、３年生、１年生で小国支援学校の生徒との交流及び共同学習会を行いました。

３年生は、ゲーム形式の学校探検やフロアホッケーを通して交流を図りました。１年生は、ビーチバレーボール運びゲーム、フロアーホッケーを通して交流を図りました。

１年生も３年生も『最初は、みんなとうまく接することができるか、少し不安だったけどゲーム等で交流できて楽しかったです。休憩の時も班のみんなと話したり、遊んだりすることができました。また、いつか交流したいです。』という感想を書いた生徒がたくさんいました。

一人一人の個性を尊重し、認め合い、互いに協力する活動ができたようです。

「きよら塾」の実施

中間テストに向けて、学習の仕方等を指導したりする場を設定しました。名付けて、『きよら塾』です。放課後の短い時間が、１０問中１問でも間違えたら、やり直しと家庭学習で大切なこと等を指導していきます。家庭学習の習慣化に向けた取組です。

特集

6月は、『心のきずなを深める』月間

６月は、「心のきずなを深める」月間です。

先日、生徒総会の折に、雁のＶ字編隊飛行について生徒に話しました。

雁という渡り鳥は、春シベリアの北極圏で産卵し、夏から秋にかけて子育てをするそうです。冬になると、えさを求めて、南の方（日本列島）へ飛んでくるそうです。その距離、何と数千ｋｍに及ぶそうです。一年目の若い雁も一緒に羽ばたいて日本列島に到着します。

その時の雁の集団をよく見ますと、必ずＶ字型の編隊を組んでいます。これには訳があり、先頭を飛ぶ雁は、空気の抵抗が強くとても疲れるのですが、二列目以降を飛んでいる雁たちは、前を飛んでいる雁の羽ばたきによる空気の渦に乗り、楽に飛ぶことが出来るのです。

先頭の雁がくたびれると、後ろに下がり、二列目の雁が先頭に立ち飛行を続けるそうです。この繰り返しで、何と一羽で飛行する時よりも70％飛距離が伸びるそうです。

もう一つすごいのは、**若い雁が疲れて列を離れてどこかの陸地に降り立つと、必ず二羽の成長した雁が付き添い、若い雁が回復するまで一緒に待っている**そうです。その後、回復した若い雁は、成長した雁と共に別の雁の群れに合流し日本列島を目指すことができるという話です。動物の本能として、**『互いに相手のことを大切に思い、支え合う』**という能力があるのかもしれません。我々人間社会も同じです。**『それぞれの個性を大切にし、認め合い、互いに支え合う』**関係を作っていく努力が必要です。**まずは、自分の思いをうまく伝えること**から始めたらどうでしょう

編集後記

原稿を書いている途中ふと、金子みすずさんの詩を思い出しました。

「わたしと小鳥とすずと」という詩です。

わたしが両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのように、
地面（じべた）をはやくは走れない。
わたしがからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのように
たくさんのうたは知らないよ。
すずと、小鳥と、
それからわたし、
みんなちがって、
みんないい。